

報 告

経済学会秋季講演会

十一月二十一日(金)

講師・演題

「アメリカ労働戦線統一後の諸問題」

松井七郎 教授

「イギリス労働運動史研究の方法論」

入江節次郎 教授

経済学会では毎年春季、秋季の二回に亘り講演会を開催して来たが、本年の秋季講演会も例年にならって経済学部の松井、入江両先生にお願いして開催された。講演は入江助教、松井教授の順で行われた。我々にとっては全く興味深く有意義なものであった。(以下は両先生の要約による)。

イギリス労働運動史の研究法論

入江節次郎

イギリス労働運動史の研究は、外国の現代史研究の特殊部門をなす。この観点から、歴史研究の一般的方法論を述べる。そして、そこから立ち入って、次の諸点が方法論上の重要な問題である、

と指摘する。

(1) 問題視角として日本の現代の問題との関連性——ナショナリズムとインター・ナショナルリズム (2) 実践科学的立場から現代史を取扱う大学における研究者の条件——アカデミズムにおける社会意識の構成の問題 (3) 政治的経済的デモクラシーに視角を当てることの現代的意義 (4) 歴史法則と社会法則との相違性——歴史的確の把握の方法、一般性と特殊性、必然性と偶然性、歴史における個人の役割、社会思想の把握の方法、組織の意義等。

そして、従来のイギリスをはじめ外国の労働運動史研究には、右の問題点が、必ずしも明瞭に意識されていなかった。そのため、例えばイギリス社会民主主義や労働党のとりえ方において不十分な点が多く、日本人の生活と直結を意図せしめるような教育的な歴史的研究が、なされなかったと具体的例をあげて論じた。

なお、労働運動史研究における史料選択と批判や、労働運動発展の法則の究明として、景気の局面との関連、ブルジョア支配構造との関連など、イギリスについての研究の場合の重要な課題にも簡単に触れた。

アメリカ労働戦線統一後の諸問題

松井七郎

アメリカ労働運動の特殊性として非階級性、非政治性及びインテリゲンチアの非指導性等が指摘されているが、最近におけるアメリカ労働戦線の統一が、これに如何なる影響を与えるものであるうかは、アメリカ労働運動の発展史上極めて重要な問題である。

二十年の長い間組織や運営、イデオロギーの相違などのために分裂し、対立、抗争を続けていたAFLとCIOが合同して既に三年、その間各州及び主要都市における両組合が合同を完了したのは当然のことであるが、なを多くの問題が残されている。その最も困難なものは旧AFL、CIO両組合間における管轄権の問題で、これがCIOを分裂させた直接の原因であっただけに、解決には相当な困難が伴うことと思われる。組織拡大の問題としては、火夫機關士組合や乗務員組合の如き、組織の頭から独立していた鉄道労働組合がAFL・CIOに加盟したことは組織運動の一大成果であるが、共産党により支配されているという理由でCIOから除名された左翼組合や、組合幹部の腐敗墮落のためにAFLから除名された組合を、再びAFL・CIOの陣営に引戻すのは今後に残された大きな課題である。

他方同一産業内における職別、産別両組合の統合はかなり進んでいるが、南部諸州の未組織産業における組織運動は、経営者側の強力な抵抗のために予期した程の成果をあげていない。そしてまた丁度それと時を同じくして上院の調査委員会が組合幹部の強請や脅迫など、組合の不正事件を摘発したことも、組合の組織運動を著しく困難にしている。この問題に関連してミーニー会長は、このような不正のあった運転手組合を含む有力組合を断乎除名するとともに、組合に対し倫理実践基準を制定して、組合の浄化運動に全力を注いでいる。

また新組合連合体は国際問題に対し特別な関心を示し、国際自

由労連を通じて自由国家群の民主的労働組合組織の確立に努力すると同時に、アメリカ政府の外交政策に組合の立場を反映させるため、政府外交機関に労働顧問乃至は労務官制度を設置して外交に直接参画していることも見逃せない。

要するに、AFL・CIOの合同は、アメリカ労働運動の非階級性、非政治性及びインテリゲンチアの非指導性というこれまでの一般的特質を根本的に変革するものではなく、新AFL・CIOの規約の中にはむしろ市民的乃至は中産階級意識が横溢しているが、それは全労働者階級の生活を中産階級乃至はそれ以上にまで引上げることを組合の目標にしているからである。また組合の指導層を見ても、AFL・CIO本部を初め全国組合の事務局には多くのインテリ出身の専門家が在るが、組合三役など組合指導の実権を握っているものは依然として筋肉労働者から出ている。更に政治活動の面においては、組合の組織や活動を保護する労組法、未組織労働者の経済生活の引上げを目的とする労働基準法、そしてまた失業時や老後の生活の保障を中心とする社会保障法などを拡充強化することに組合はつとめているが、それは依然として非政党的政治活動、即ち濫同排異 (Reward your Friends and Punish your Enemies) の政策を通じてこれを実践せんとするものである。第三政党たる労働党に近い将来に確立しようとする意図はないように思われる。それはアメリカの組合が団体交渉、労働協約を中心とする経済闘争に組合活動の中心を置いていることにもその原因があるのであらう。